

金貨五十枚
それが彼女の値段だった

健康で傷もなく従順—
主人に逆らわないよう
魔法もかけられている

友達の借金を肩代わり
したせいで奴隷落ち
してしまったらしい

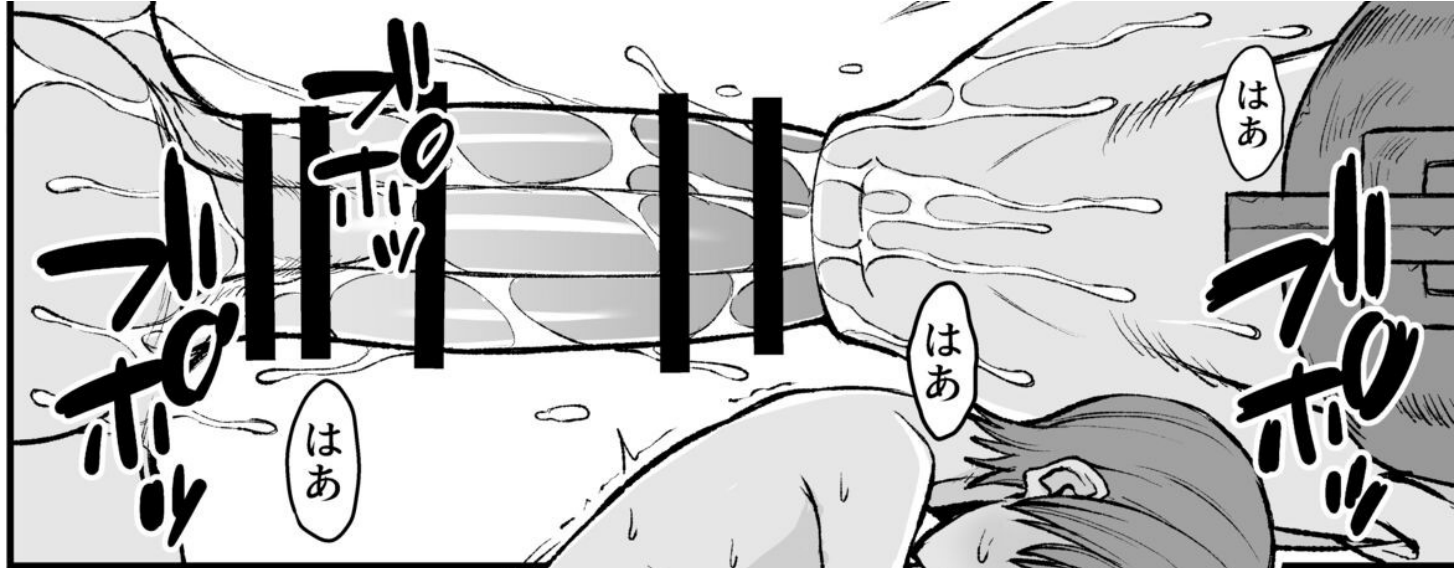
僕はお姉さんのことを
可哀想だと思った。
それと同時に—

これからこのお姉さんは僕のもので
なにを命令しても良いということ
好きにしていいたいこと…

服…

脱いで
くれますか？

不安そうにしている
表情を見て僕は…
興奮してしまっていた



はあ

はあ

はあ

そして僕は
彼女の口を犯した

すほ...

出る...

ふ...

はあッ...

はあッ

ふ...

はあッ

はあッ...

また出る...

はあッ

初めての快感に抗えず
何度も何度も
彼女の口に射精した...

はあッ
ヤッ

すほ...

はあッ

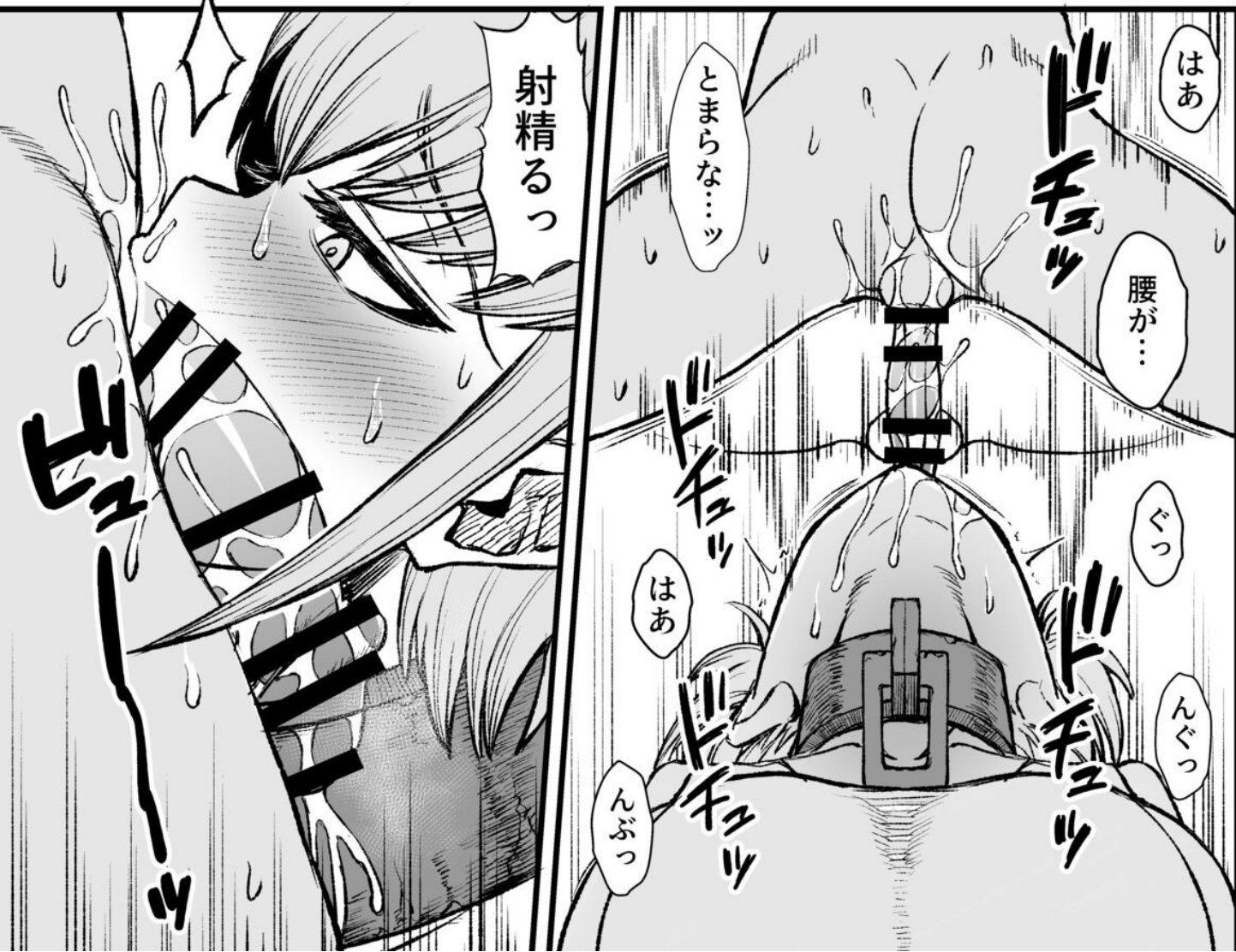
はあッ...

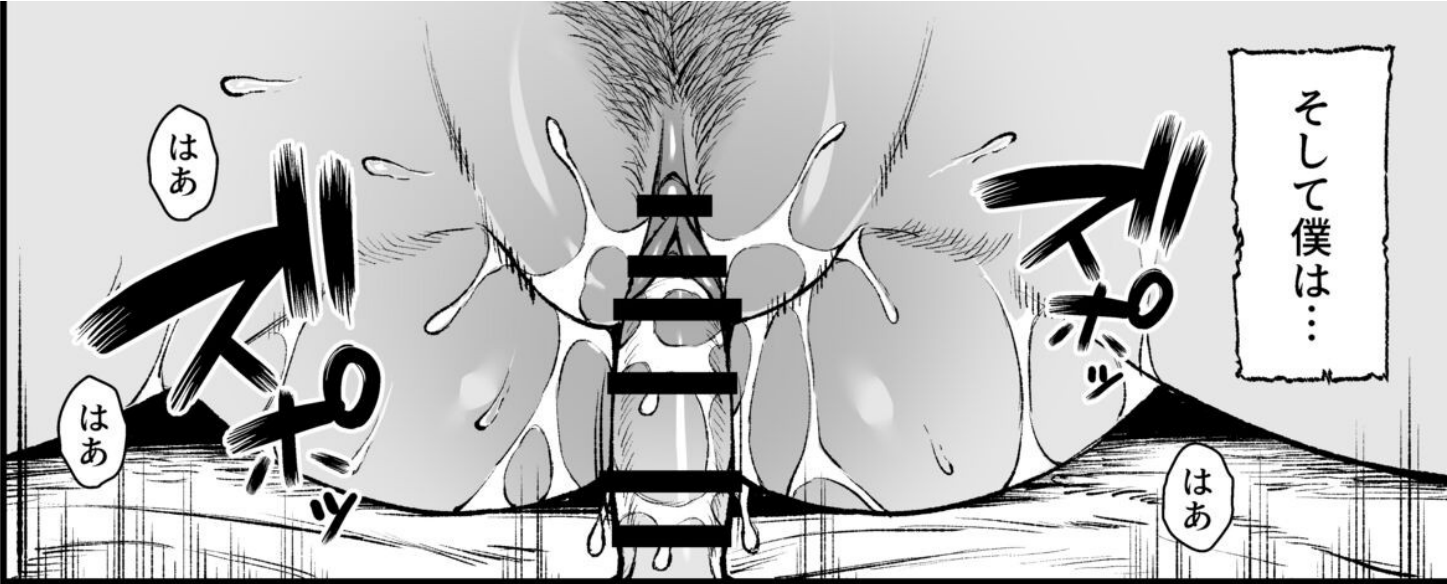
ズッ

ズッ

クッ
ポッ
ポッ

クッ
ポッ
ポッ





そして僕は…



拒むことのできない
彼女の身体に必死に
腰を打ち付けていた



舌を出すと自ら
舌を絡めてきた

僕を受け入れてくれた
みたいで興奮した

僕は性器から
精液を最後の一滴まで
彼女に注ぎ込んだ



友達の代わりに…
奴隷になって悲しくないの？
辛くないの？と聞いた

好奇心と性欲に負け
僕は彼女を買った
身体を汚してしまった

それでも…

「親友を救えて良かったです」と
笑う彼女を見て…僕は罪悪感と共に
彼女を幸せにしたいと思った

